

ピースポート災害ボランティアセンター 2014年8月 広島市土砂災害 活動レポート

作成:2014/11/30

8月20日に発生した土砂災害では、広島市安佐南区・安佐北区を中心に、多くの人命を奪うと共に4千を超える家屋へ対して甚大なる被害をもたらしました。被害の多かった安佐南区は、広島市最多の23万9千人が生活しており、山間部を中心に宅地開発によって栄えた都市です。一方安佐北区は人口15万人、広島市最北端に位置し地域コミュニティの繋がりが強く感じられる地域です。

同地域での災害発生の情報を得たPBVでは、8月25日に先遣スタッフを現地へ派遣。被害状況の把握と共に災害ボランティアの活動調査を開始しました。現地では先に支援・調査を開始しているジャパンプラットフォームや災害ボランティア活動支援プロジェクト会議、被災地NGO協働センターなどの外部支援団体の協力を得ながら必要となる支援内容を調査しました。



今回の災害は報道でも大きく取り上げられた結果、多くの注目と共に、ひと・もの・資金といった支援が集まりました。突如起こった災害の大きさに災害対応経験の少ない行政の混乱した状況が見て取れました。災害ボランティアセンター(以下:災害VC)の運営に関しても、災害対応へ対する経験不足と共に、応援スタッフも短期間で交代してしまうなど、ノウハウがなかなか蓄積されない状況が発生していました。それに加え多くのヒトが集まることで混乱に拍車がかかってしまう状態でした。

そのような状況からPBVでは長期的に支援に携われる経験者の必要性を感じ、9月1日より長期で常駐出来るスタッフ2名を安佐南区災害VCへ派遣。被害のあった同区八木地区に設置されたサテライトの運営サポートを実施しました。また被災住民からのニーズ把握や現場活動をコーディネートするスタッフ3名を9月11日より追加で派遣し、活動を行いました。



活動の拠点となった八木サテライトでは、マッチング班の統括業務を担うと共に、社協 VC を通さずに活動する地元団体との情報交換会の実施や、そういった活動団体へ対しての個人ボランティアの派遣などの連携を行いました。PBVとしての災害 VC サポートは八木サテライト閉所の 9 月 30 日を持って終了とし、運営ノウハウの提供と共に書面化した形での業務引継ぎを行いました。10 月以降安佐南区の災害 VC は週末のみ運営される災害 VC に変更となりました。



また今回の支援では災害 VC サポートだけでなく避難者への支援も実施しました。安佐南区・安佐北区では、家屋被害や避難指示区域の継続により、両区併せて 20 箇所以上の避難所が開設され数千人を超える方々が避難していました。家を失ったことによる避難生活は長期化が予想されそういった避難所生活者や在宅避難者へのニーズ調査と支援が必要と判断し、9 月 5 日より避難所や地域単位での「炊き出しカフェ」を 11 ヶ所で計 56 回実施し、2849 食を提供しました。

住民が集まることで「家の清掃はボランティアに頼めるの?」といった基本的な困りごとから、「家が住める状態に戻っても、土砂崩れが起こるかもしれない」と考えると家に戻れない」といった精神的な課題まで見受けられます。そういった声に対し、ボランティアの派遣を行ったり、行政の対応窓口を紹介したりなど、住民と支援を”つなぐ”ことを実施してきました。この活動には県外から被災地 NGO 協働センターが行う足湯や、女性へ向けた支援を行う、難民支援協会など専門性を持った団体と協働し実施することで、一人ひとりのニーズとそれに合わせた支援を”つなぐ場”にもなりました。また地元 NPO、学生、個人ボランティア、個人商店など多くの方々からの協力を頂きながら活動を行うことで様々なニーズへ対する対応に繋がりました。



また、この炊き出しカフェの実施を手伝ってくれた、地元のボランティア有志が新たに「広島土砂災害コミュニティサポート(通称:コミサポ)」という支援団体を立ち上げるなど、支援の輪が広がりました。PBVではのべ 405 名(10 月 30 日時点)のスタッフ、ボランティアの派遣と共に日本財団学生ボランティアセンター、東京都災害ボランティアセンター、apbank など外部支援者の活動コーディネートも行いました。

今回の支援には東京海上日動火災保険株式会社「Shere Happiness 倶楽部」様からの災害対応費をはじめ、ジャパンプラットフォーム、震災がつなぐ全国ネットワークより活動費の助成、多くの個人の皆様からのご寄付を頂きました。また、現地で共に活動を行った全国からの社会福祉協議会職員や支援団体、多くのボランティアの皆さまに支えられた支援となりました。まことにありがとうございました。